

## 「5S」と「論語」を学力向上、受験、就活に役立てよう

開倫塾

塾長 林 明夫

Q: 「5S」と「論語」は学力向上(学校成績の向上)、受験(希望校合格)、就活(就職活動)に役立つのですか。

A: (林明夫: 以下省略)はい。役立ちます。大いに役に立ちます。「5S」と「論語」はともに、家庭、学校、社会での毎日の生活に役立ちます。

学校成績の向上(学力向上)にはもちろんのこと、近い将来の希望校合格(受験)や、将来の就職活動(就活)にもとても役立ちます。

Q: それはなぜですか。その前に、そもそも「5S」とは何かを教えて下さい。

A: (1) 「5S」とは「整理(せいり)」、「整頓(せいとん)」、「清掃(せいそう)」、「清潔(せいけつ)」、「躰(しつけ)」のことです。この5つのことばを各々ローマ字で表記すると、seiri, seiton, seisou, seiketsu, shitsuke とすべてSで始まりますので、まとめて「5S」と言うようになったと思われま

(2) その1つ1つの意味は、次の内容であると私は考えます。

- ① 「整理」とは、不要になったものを処分すること。
- ② 「整頓」とは、必要なものを決まった場所に置くこと。すぐに取り出せるようにすること。
- ③ 「清掃」とは、掃除(そうじ)をよく行うこと。
- ④ 「清潔」とは、衛生状態を常によくし、保つこと。スカツときれいにすること。
- ⑤ 「躰」とは、以上のことを自主的、自律的に行うこと。

(3) 「5S」の指導で有名な木村温彦先生は、「整理」の次は「清掃」、そのあとは「整頓」という順序で「5S」を進めるべきだと「足利5S学校」で指導して下さっています。その通りだと私も考えます。

(4) 「5S」は職場、特にものづくりの生産現場で、不良品や事故をなくすために、また、無駄な動きを少しでも減らして労働時間を短縮し、効率よく働くために考え出された日本固有の改善活動の1つ、第一歩です。「5S」を第一歩とする「改善活動」は、外国ではKAIZENと呼ばれ、英語にもなって世界中の工場や職場で用いられています。

(5) 「5S」の最後の「躰」とは、①～④を誰かに言われなくても、指示されなくても、自分から進んで自分の意志で、つまり自律的に行うことであると私は考えます。このような意味での「躰」は、ものごとをするときの立派な考え方、生き方だと考えます。

Q：社会に出て仕事をするとき役立つ「5S」が「学力向上」、「受験」、「就活」にも役立つと林さんは考えるのですか。

A：(1)はい。学校に行くときに持っていくカバンの中、学校で自分が使うことのできる机やロッカーの中、自宅に帰ってきてから勉強する自分のスペース、机の上や机の中、本箱、本棚の中をよく見て下さい。不要なものはありませんか。いつもスカッときれいに、清々しく、気持ちよくなっていますか。必要なものをゴソゴソと探すことなく、サッと取り出せますか。

(2)カバンの中、学校や家の机の中、ロッカー、本箱、本棚の中から不要なものを定期的に処分する「整理」、カバンの中、机の上、机の中、本箱、本棚、部屋をスカッときれいにする「清掃」、必要なものはカバン、机、ロッカー、本箱、本棚の決まった場所にキチンと入れ、いつでもパッパッと取り出せるようにしておく「整頓」、これらは「学力向上」や「受験」、「就活」に役立ちます。

(3)なぜか。忘れ物が大幅に減ります。ものを探している時間が減ります。何をやめて何からまずやるべきかという順序、もっと言えば優先順位を考える能力が身につきます。衛生状態がよくなりますから、病気になりにくくなります。そして何よりも、これはやらないでこれはやるということを自分で決める力、つまり自主性と、自分自身の行動をコントロール・律する力、つまり自律心が身につきますので、勉強も自分から進んで行うようになります。

Q：「論語」とは何ですか。「論語」には何が書いてあるのですか。

A：(1)「論語」は、今から 2500 年ぐらい前の中国の春秋(しゅんじゅう)時代の思想家、孔子(こうし)の教えを弟子たちがまとめたもので、499 章あります。

(2)その第 1 章は「<sup>まな</sup>学<sup>とき</sup>びて<sup>こ</sup>時に<sup>なら</sup>之<sup>ま</sup>れを<sup>よろこ</sup>習<sup>とも</sup>う、亦<sup>あ</sup>た<sup>えんぼう</sup>説<sup>きた</sup>ば<sup>ま</sup>し<sup>たの</sup>から<sup>ず</sup>や。朋<sup>とも</sup>有<sup>あ</sup>り<sup>えんぼう</sup>遠<sup>きた</sup>方<sup>ま</sup>より<sup>たの</sup>来<sup>ず</sup>る、亦<sup>あ</sup>た<sup>えんぼう</sup>楽<sup>きた</sup>し<sup>ま</sup>から<sup>ず</sup>や。人<sup>ひと</sup>知<sup>し</sup>ら<sup>ず</sup>ず<sup>い</sup>して<sup>い</sup>て<sup>い</sup>き<sup>ど</sup>お<sup>ら</sup>ず、亦<sup>ま</sup>た<sup>く</sup>ん<sup>し</sup>君子<sup>なら</sup>ず<sup>や</sup>」(一度理解したことを繰り返して復習すると、習ったことが身につく。こんな嬉しいことはない。同じ志をもった友が遠くからたずねて来て、ともに語り合う。こんなにうれしいことはない。他人が自分を認めてくれなくても、その人をうらむことはない。そのような人こそ、人格、人徳ともにすぐれた人だ)です。「学<sup>まな</sup>びて<sup>とき</sup>時に<sup>こ</sup>之<sup>なら</sup>れを<sup>ま</sup>習<sup>よろこ</sup>う」から「学<sup>まな</sup>習<sup>よろこ</sup>ぶ」という言い方が広まったと私は考えます。

(3)第 1 章から第 449 章まで、人格、人徳がすぐれた人とはどのような人かが孔子の経験を通して弟子たちにより具体的に記されています。「<sup>こころざし</sup>志」を高くもち、自分の行動を自分で律しながら自律的に生きるにはどうしたらよいか具体的に書かれています。何のために生きるのか、何のために学ぶのかを考える、つまり「自覚をもって学ぶ」よいきっかけを得るのに「論語」は最適と私は考えます。

(4)もしかしたら「5S」の自分自身の意志で行動する「躰」と「志高く生き、学ぶ」ことを教える「論語」は、「自律的に行動する」という点で共通していると私は考えます。

Q：最後に一言どうぞ。

A：教育の成果を決定する要因として最も大切なものは、「本人の自覚」であると私は考えます。

「5S」と「論語」に真正面から取り組むことにより「自覚」をもって行動し、学習することの大切さを学び取り、また、実行していただきたいと希望します。

そうすれば、「5S」と「論語」は皆様の学校成績の向上、希望校合格、就職活動、社会に出てからの活動に必ず役立つ、死ぬまで役立つと確信いたします。

— 2012年6月12日林明夫記 —